

第3号

「自律」「協働」「対話」

令和8年度 長崎市立横尾中学校 学校だより

しなやか

しなやかに挑戦
できないと挑戦をはじめから諦め
ず、どう工夫し、どう改善すればい
いか柔軟に考え、対応していくこと

R 8 . 5 . 2 0 発行
校長：角 厚作

令和8年度 横尾中学校体育大会

新緑の風が校庭を吹き抜け、暑さが厳しい五月。先日の5月17日、本校の令和8年度体育大会を無事に開催いたしました。今年度のテーマは「一心入魂 ～つなげ！98色の横尾魂～」その言葉通り、98名の一人ひとりが自分の色を最大限に輝かせ、その個性が一本のバトンのようにつながり、大きな感動を生み出した一日となりました。

大会の成功を振り返る時、まず感謝しなければならないのは、開催を一週間後に控えた週末に行われた「除草作業」です。早朝より、多くの保護者の皆様、そして地域の皆様、外大の先生や学生さんが、生徒たちと共に汗を流してくださいました。

生い茂っていた雑草が取り除かれ、美しく整えられたグラウンド。その光景は、まさに大人が背中ですす「協働」の姿そのものでした。生徒たちが安心して全力で駆け抜け、転んでも怪我をしない環境を、地域の皆様の手で作っていただいたこと。この温かな「支え」があったからこそ、生徒たちは当日、心置きなく競技に集中することができました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

全校生徒98名。決して大きな規模ではありません。しかし、人数が少ないからこそ、一人ひとりに回ってくる役割は大きく、そして重要になります。

競技はもちろん、放送、用具、決勝、出発係……。自分の出番が終わればすぐに係の仕事へと駆け出す生徒たちの姿がありました。そこには、誰かに言われて動くのではない「自律」の精神が宿っていました。「自分が動かなければ、この大会は進まない」。その責任感こそが、98という個性を、ただの数字ではなく「強み」へと変えたのです。

また、プログラムの合間を利用した各学年の「盛り上げ隊」によるパフォーマンスや人数の少なさを感じさせないほどの大きな声援、仲間を鼓舞する対話、

そして何より全校生徒が一つになった横尾ソーランは、見る者の胸を熱くさせました。少人数であることを言い訳にせず、むしろ「全員が主役である」ことを証明した生徒たちの姿は、本校が目指す「自律した学び手」の理想像そのものでした。

体育大会は終わりましたが、私たちが手に入れたものは「勝利」という結果だけではありません。準備期間から当日まで、仲間とぶつかり合い、対話を重ね、一つのを創り上げてきた「過程」こそが、生徒たちのこれからの宝物になります。

自分の色を大切にしながらも、他者の色を認め、互いにつなぎ合っていく。この「98色の横尾魂」を、今後は日々の授業や委員会活動、そして地域との交流の中で発揮してほしいと願っています。

保護者の皆様、地域の皆様。皆様との「パートナーシップ(共育、協働)」によって、生徒たちはまた一步、逞しく成長することができました。これからも、子供たちの「伴走者」として、温かなご支援と厳しいご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

魂を込めて駆け抜けた98名の勇者たちに、改めて心からの拍手を送ります。
ご参観、そして暖かいご声援ありがとうございました。



伝統
横尾中ソーラン
♪ ♪



盛り上げ隊



全校長縄跳び